

# 土門 剛



土門 剛 どもん たけし

【プロフィール】

1947年大阪市生まれ。早稲田大学大学院法学研究科中退。農業や農協問題について規制緩和と国際化の視点からの論文を多数執筆している。主な著書に、『農協が倒産する日』（東洋経済新報社）、『穀物メジャー』（共著／家の光協会）、『東京をどうする、日本をどうする』（通産省八幡和男氏と共著／講談社）、『新食糧法で日本のお米はこう変わる』（東洋経済新報社）などがある。大阪府米穀小売商業組合、「明日の米穀店を考える研究会」各委員を歴任。会員制のFAX情報誌も発行している。

## 米国の、TPPを利用した ジャパン・マナー収奪方法

べく、あえてわが思いを宣長の和歌に託したのだ。

酔人なるほど。

**土門** 宣長が生きた江戸中期の1775年に、1年半ほど、わが国に滞在したことがあるスウェーデン生まれのカール・ツンベルグというオランダ・東インド会社付医官が残した日本の印象記には、「国民性は賢明にして思慮深く、自由であり、従順にして礼儀正しく、好奇心に富み、勤勉で器用、節約家にして酒は飲まず、清潔好き。善良にして友情に厚く、率直にして公平、正直にして誠実、寛容であり、悪に容赦なく、勇敢にして不屈である」という記述がある。

**酔人** 宣長が和歌に託した日本人観を、同じ頃にツンベルグも共有していたことは驚きだ。さてお屠蘇の酔いがほどほどに回り始めた。テーマは、やはり環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉だ。TPPで美しい国の景観と、日本人の美德が守れるかどうか。放談を始めてみようか。

## TPPとRCEP、 どっちを選べば得か

**土門** 新政権で気になるのは、党首討論会（11月30日）での自民党、安倍晋三総裁の発言だ。安倍総裁は、「聖域なき関税撤廃は関税自主権を手放せと言っているようなもの」と発言している。この発言は、主権を侵害するようなことが交渉テーマなら、TPPには参加できないと言っているのに等しいと思う。TPP交渉には、わが国の憲法や法律を超える項目がいくつもあり、その認識に立つなら参加できないはずだと思うが、その辺のことがきちんと理解できているのかな。

**酔人** 民主党マニフェストもトーンダウンしたね。

**土門** 所詮、下野確定の政党が打ち出すマニフェストなので論評に値せずだが、選挙間際になって、ややトーンダウンさせたのにはあきれたよ。TPP参加を公約の前面に押し出して候補者に踏み絵を踏ませていた勇ましさはどこへ行ったのかな。

## 敷島の大和心を人間はば 朝日に匂ふ山桜花

**酔人** お正月の挨拶が、江戸時代末期の国学者、本居宣長の和歌だったとは。

**土門** 正月を迎えると、もうすぐ春だ。春と言えば、桜。それも照葉樹林の中にひっそりと咲く山桜が好きなので。

**酔人** 敷島、朝日と聞けば、昔の煙草のブランドや、戦時中の神風特別攻撃隊を思い出す。

**土門** 最初の特攻部隊は、この和歌から「敷島隊」「大和隊」「朝日隊」「山桜隊」と名付けられた。散り際の潔さを賛美するかのような解釈が

独り歩きして、つい勇ましい軍国のイメージを思い浮かべてしまうが、

宣長の本意は違うらしいよ。パッと散ってしまうソメイヨシノだったら、そういう解釈が成り立つかもしれないが、宣長が、山桜にかける枕詞に使ったのは「朝日に匂ふ」というフレーズだ。勇ましいイメージとは違う。これを戦意高揚に悪用した戦前の軍国主義者の魂胆が透けて見えてくるな。

**酔人** 今回の総選挙で右派勢力が大きき票を伸ばした。

**土門** 尖閣列島や竹島の領土問題がそうさせたようだが、相手の挑発に乗りやすい勢力にブレーキをかける

しかも笑ってしまうのは、「日中韓自由貿易協定（FTA）、東アジア包括的経済連携（RCEP）」と同時並行的に進め、政府が判断する」という表現を使った部分だ。

**酔人** RCEPとは初めて耳にする言葉だな。

**士門** 高いレベルでの包括的経済連携協定ということでは、TPPと同じようなものだが、まずは地域性と顔ぶれの組み合わせが違う。TPPは、ニュージーランド、チリ、米国、豪州、ペルー、メキシコ、カナダの太平洋をグルッと取り巻く7カ国と、シンガポール、ブルネイ、ベトナム、マレーシアの南シナ海に面した4カ国が交渉を進めている。一方のRCEPは、東南アジア諸国連合（ASEAN）と、すでにFTAを締結している日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドの6カ国との包括的経済連携のことで、ASEANには、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、ミャンマー、マレーシア、カンボジア、ラオス、シンガポール、ブルネイの10カ国が参加している。

**酔人** TPPとRCEP、GDP（国民総生産）ベースでどっちが大きいのか。

**士門** どちらにも日本の参加を前提にしない比較では、RCEPはTPP

Pの7割程度だ。ただTPPは、全体の4分3は米国が占める。それに比べ、RCEPは、中国やインドの経済躍進国もあれば、インドネシアのように急成長が確実に見込める国が並んでいる。将来的な魅力という点ではRCEPに軍配が上がる。

**酔人** TPPとRCEPで重複している国があるね。

**士門** ベトナム、マレーシア、シンガポール、ブルネイの4カ国は二股交際だ。韓国はすでに米国とFTAを締結しているの、米国主導のTPPはパス。RCEP参加には名乗りを上げている。中国は、TPPには最初から関心がない。RCEPを舞台裏で操ろうとしているのはいかな。

**酔人** 相姦図みたいなものだな（笑）

**士門** 国家の利害得失が絡むだけに、ドライといえばドライ。高度な経済連携は、国益に影響を及ぼすだけにパートナー探しは、どの国も真剣だ。ただ日本のように何も知らされないまま米国と心中を覚悟するよな見通しの甘さは、あまりないのではないかな。

**酔人** もしTPPが先に合意した場合、RCEPにも参加表明している4カ国はどうするのか。

**士門** どちらにも参加できるのだ。RCEPと同時並行に交渉が展開す

れば、TPPの早期妥結は難しくなるのではないかな。結局、形を変えた多国間交渉のようなもので、市場開放度の高いTPPは流産する心配さえ予想される。

**酔人** 日本はどうしたらよいか。

**士門** この時期に慌ててTPP参加を決めることはない。急ぎ飛び乗っても有利な条件を引き出すことは絶対に無理だ。ここはRCEPの動きが具体化するまで待てばよいのではないかな。どちらが得か、天秤にかけやるといふスタンスこそが国益に沿う最良の道だと思ふ。米国を相手のFTA交渉で慌てて飛び乗って失敗したのが、お隣の韓国だった。

**酔人** 中国はどうか。

**士門** 前述のとおり、もとより米国主導のTPPには興味はない。多国間の包括的経済連携協定をやるなら、中国主導でやりたいと考えているはずで、現時点で、日本はどちらにもお手並み拝見というスタンスで高みの見物を決め込んだ方がよいに決まっている。とくにTPPは、日本の参加がなければ、もとより成り立たないのだから。

## 新自由主義という魔物が日本を滅ぼす

**酔人** TPP交渉の本質は何か。

**士門** 賛成派は、えべっさん（恵比

寿神のこと）が福袋をばらまいてくれるようなことを言っているけど、何を根拠にそう言うのかな。TPPに参加して関税が下がるのは2%程度だ。これで輸出が増えるとは思えない。それより為替レートを是正することで輸出問題は一気に解決するのだ。逆に米国にとって有利な為替レートでも、米国の対日輸出は増えなかったという事実をどう考えるかだ。

**酔人** そもそも米国製品に競争力がないということか。

**士門** 国全体で真面目にもの作りをするということを放棄してしまったことが、その結果を招いた。それを他国に責任転嫁している。日本の軽自動車規格を廃止しろという米国自動車業界の要望は、その最たるものだ。

**酔人** 軽自動車は米国でも作っているのか。

**士門** 作っていない。日本の軽自動車の存在が、米国製自動車の対日輸入にとって参入障壁となっているという言いがかりだ。TPP協定の締結に関する事前協議を始める前に、米国政府が米国自動車業界の意見を集約したところ、そんな意見が出てきたのだ。彼らの言い分を整理すると、軽自動車は自動車税の税率が、1・0リッター未満の普通車に比べ

# 士門 辛聞

易保険の豊富な資金ということだ。07年に民営化された(株)ゆうちょ銀行と(株)か

て4分の1以下ということに難癖をつけてきたのだ。その軽自動車規格を廃止すれば、米国製小型車の対日輸出が増えるとも思っているのだろうか。そんな連中に自由貿易なんて言葉は使って欲しくないな。

**酔人** 米国の関心はどこにあるのか。

**士門** 農業がクローズアップされているが、米国の狙いは、農業ではない。彼らもつとも得意とする分野か、あるいは日本の富を収奪できる分野だ。その両方に共通するのが金融や保険だろう。

**酔人** 農業分野はどうか。

**士門** 金融で要求が通るなら、米の例外措置みたいなものは米国にとって鼻糞程度だろう。それを譲って金融や保険の要求を勝ち取ることは、アフリカの原住民にガラス玉と金を交換するようなものだ。

**酔人** 何が狙いか。

**士門** ゆうちよ銀行やかんぽ生命保険の300兆円に上る資金だ。国債を大量発行する米国は、最近引き受け手が少なくなっている。そこで目を付けたのが郵便貯金や簡

んぽ生命保険を上場させ、米系金融資本に買い取らせようという魂胆があるのではないかな。そのためにTPP交渉を利用するというのが米国が秘かに描くシナリオと思う。日本の資産を略奪することにおいては常習犯だ。戦後、米国は2回もジャパ・マネーを掠め取った。まずは71年8月のニクソン・ショックだ。同年7月、日本の頭越しに中国と電撃的に国交を樹立したショックではなくて、その翌月に、ドル紙幣と金との兌換停止を宣言したニクソン・ショックのことだ。金本位制の放棄と説明した方が分かりやすいか。次いで85年9月のプラザ合意だ。これは以降の円高相場のきっかけとなった。

**酔人** 兌換停止でジャパ・マネーをどう掠め取るのか。

**士門** ニクソン・ショック以前は金本位制だから、貿易の決済は金で行っていた。輸出代金をドルで受け取っても、金に交換すれば、日本に持ち帰ることができた。ところが兌換停止になれば、金では持ち帰れないので、実質的にドルでの決済となる。しかも通貨制度は変動相場制に移行していたから、ドルを大量に持ち帰れば、円高になってしまう。円への交換による差損を嫌ったドル資金は、米国債の購入に使われるケ-

スが多かったようだ。

**酔人** 詐欺同然だな。

**士門** 詐欺そのものだよ。マイケル・ハドソンという米国の経済学者は、ニクソン・ショック直後の72年に、「超帝国主義国家 アメリカの内幕」という著書の中で、「アメリカが、歴史上帝国を建設したどの国よりもどうやって上手に行ったかをあなたは見せてくれた。われわれは史上最大のペテンをうまくやってのけたわけだ」と総括していたよ。

**酔人** そんなの誰も知らないよ。

**士門** 次のプラザ合意だ。先進国が集まってドルが暴落していくことを合意したが、その数年前から米国政府は、圧力をかけて日本の投資機会に米国債を購入するようにした。260円から280円が当時の相場だった。それがプラザ合意で一気にドル安に落ちていった。かりに30年債を買ったものは、償還日をすでに迎えたものもある。それを円に換えるようにしたら、今の相場が適用され、巨額の為替差損を抱えてしまうことになる。仕方なく米国債を再購入することになり、結果、日本の資産が永遠に米国に留め置かれることになる。インチキ手品みたいな手口だが、国家的規模でやると、詐欺も詐欺でなくなってしまう典型例のようだな。

**酔人** さて、TPPを利用してジャパ・マネーを掠め取る手口だ。

**士門** 郵政民営化の総仕上げ、いまは政府が株式を所有しているから国営に近く、米国債購入は国会の承認が必要となる。民間会社なら株式を取得して経営権を握れば、役員会の承認だけで米国債に投資できる。そのためにも米国は、TPP交渉の舞台を利用して米系金融機関による買収の糸口を付けるのだろう。

**酔人** 酔いが覚めてきたな。

**士門** マスコミがしきりに煽るTPPは、ニクソン・ショックやプラザ合意に次ぐ米国によるジャパ・マネーを掠め取る第三弾という位置づけだということを絶対に忘れてはならない。米国が主導するTPPの裏には、もつと厄介なものがある。

**酔人** 何のことかい。

**士門** ウォールストリートが生み出した新自由主義という魔物だ。同盟国の経済や社会を混乱させかねないwinner-take-all(ウイナー・テイクス・オール)と、つまり勝者がすべてをかっさらってしまう非情なルールだ。こんなものを取り入れてしまえば、貧富の差がいつそう拡大し、それこそ宣長やツンベルグが称揚した「大和心」は荒び、「美しい日本」も荒廃の一途をたどるだけだ。

**酔人** 有難う。